

**第2期天童市
まち・ひと・しごと創生総合戦略**

検証報告書

令和7年3月

天童市

第2期天童市まち・ひと・しごと創生総合戦略 検証報告

1 第2期天童市まち・ひと・しごと創生総合戦略の経過

天童市まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下「天童市総合戦略」と言います。）は、人口減少問題の克服や地域経済の活性化などを目的とし、その実現に向けて策定したものです。

平成28年2月に策定した第1期天童市総合戦略は、計画期間を平成27年度から31年度までの5年間と定め、PDCAサイクルにより見直しを図りながら各種施策を推進してきました。

第2期天童市総合戦略は、第1期における効果検証を踏まえるとともに、市を取り巻く状況の変化等に対応するため、計画期間を令和2年度から6年度までの5年間と定め、令和3年2月に策定しました。総合戦略は、人口減少や少子化、地域経済の活性化など、総合計画と施策の方向性が同じであることから、第七次天童市総合計画の後期計画と一体的な計画となっています。

2 第2期天童市総合戦略における課題克服に向けた施策の方向性と基本目標

人口を維持することで、地域活力の維持を図ります。

安心して暮らせる住みよい「まち」をつくり、魅力ある資源を活かし新たな「ひと」を惹きつけます。それぞれの希望が叶う「みらい」を支援し、生活の基盤となる、やりがいを感じる魅力ある「しごと」をつくります。

そのために、「まち」「ひと」「みらい」「しごと」をテーマとした4つの基本目標を掲げ、具体的な施策と数値目標を設定して事業に取り組んでいくことで、本市の地方創生を図ります。

◆基本目標Ⅰ◆

多世代が安心して暮らせる、住みよい『まち』をつくる

基本目標の実現のため、この「まち」に住む多世代の多様な人々が安心して暮らせる、住みよい地域社会をつくります。子ども、若者、子育て世代や高齢者など、多世代が交流しながら暮らせる、住みやすいまちを実現するために、住環境や社会インフラ、生活環境の整備を行い、併せて寛容な地域社会を構築します。

◆基本目標Ⅱ◆

魅力ある地域資源を活かし、新たな『ひと』を惹きつける

本市に転入や移住を希望する方の宅地需要に応えるため、空き家及び空き家の土地の利活用、新市街地の整備により、移住・定住の促進を図ります。新たなひとの流れを作るため、既存の地域資源を活かすとともに、市の魅力を広く周知することで、様々な世代の目に留まり「行ってみたい・住んでみたい」と感じるまちづくりを目指します。

◆基本目標Ⅲ◆

結婚・出産・子育ての希望が叶う『みらい』をつくる

誰もが自分の希望を叶えられる未来を目指します。子ども・子育て支援施策をさらに充実し、希望する子どもを産める、育てられる社会を目指します。また、子どもの成長過程において、小・中学校生活が充実したものとなるよう支援します。

◆基本目標Ⅳ◆

地域経済を活性化し、魅力ある『しごと』をつくる

住み続けたいと思えるような地域を実現するためには、やりがいを感じる事が出来る魅力的な仕事・雇用機会を創出し、誰もが安心して働けることが重要です。地域経済においては、農業・工業・商業・観光業などそれぞれの業種で、地域の特色や強みを活かし、産業の振興や企業の競争力の強化を図ります。

3 第2期天童市総合戦略の検証

それぞれの基本目標について、指標の達成状況を踏まえながら評価を行っています。指標の達成状況は、第七次天童市総合計画における指標の達成状況判定基準と同様に、次のとおり判定しています。

A評価…達成率が75%以上

B評価…達成率が50%以上75%未満

C評価…達成率が25%以上50%未満

D評価…達成率が25%未満

これを踏まえた上で、それぞれの基本目標について、今後の方向性を評価しています。

◆基本目標Ⅰ◆

多世代が安心して暮らせる、住みよい『まち』をつくる

数値目標「すみよいと思う市民の割合」はA評価となっています。

この分野においては、10項目の指標を掲げ各施策の効果を評価しています。評価は、A評価が6項目、B評価が1項目、C評価が3項目となっています。また、A評価のうち3項目は目標値を上回る実績となっています。

基本目標Ⅰは、災害に強い・住みよいまちの実現、多世代の交流、インフラ・生活環境の整備を目標としており、各指標の実績は一部を除き上昇しています。C評価となっている「要介護認定率」や「健康寿命」は、目標に到達していませんが県平均よりも良好な状況であり、また、市民満足度の向上も見られます。全体として一定の効果を上げているため、引き続き現状の取組を推進すべきと評価します。

◆基本目標Ⅱ◆

魅力ある地域資源を活かし、新たな『ひと』を惹きつける

数値目標「社会増減数」は現時点ではC評価ですが、年度末にかけて転出者が増加するため、前年と同程度の実績（D評価）になることが見込まれます。

この分野においては、9項目の指標を掲げ各施策の効果を評価しています。評価は、A評価が8項目、B評価が1項目となっています。また、A評価のうち4項目は目標値を上回る実績となっています。

基本目標Ⅱは、住宅地の供給促進、移住促進、地域資源の活用、交流人口・関係人口の拡大を目標としており、特に移住関係の指標は順調となっています。一方、「新築住宅着工戸数」は数値が伸びておらず、今後は住宅地の需要に応える必要があるため、全般的には取組を推進しながら事業の一部を改善し、市の魅力を活かして、さらに「ひとを惹きつける」必要があるものと評価します。

◆基本目標Ⅲ◆

結婚・出産・子育ての希望が叶う『みらい』をつくる

数値目標「子ども・子育て支援施策満足度」はB評価となっています。

この分野においては、7項目の指標を掲げ各施策の効果を評価しています。評価は、A評価が3項目、B評価が4項目となっています。また、A評価のうち1項目は目標値を上回る実績となっています。

基本目標Ⅲは、結婚できる環境整備、安心して出産できるまちの実現、子育て支援施策と学校教育の充実を目標としており、「待機児童数」と「奨学金返還支援事業利用者数」の2項目は、順調に実績を積み重ねている一方、「婚姻組数」や「出生数」は全国的な傾向と同様に、達成率が低い状況となっています。子育てや教育、結婚という面は、取り巻く環境の変化に合わせて支援の方法等を適切なものとなるよう配慮していく必要があると考えられます。そのため、随時見直しを図りながら各施策を推進する必要があるものと評価します。

◆基本目標Ⅳ◆

地域経済を活性化し、魅力ある『しごと』をつくる

数値目標「市民一人当たりの所得」は前年度の実績を踏まえ、A評価となっています。

この分野においては、11項目の指標を掲げ各施策の効果を評価しています。評価は、A評価が7項目、B評価が2項目、C評価が1項目、D評価が1項目となっています。また、A評価のうち5項目は目標値を上回る実績となっています。

基本目標Ⅳは、雇用機会の創出、産業の振興、若年層や女性にとって魅力的な就業環境の促進を目標としており、各指標の実績は全体として良好な状況となっています。B評価・D評価の指標については、対象事業所から今後の申請が見込まれることもあり、引き続き現状の取組を推進すべきものと評価できます。ただし、農業の分野では農家戸数や就業人口が減少しており、物価高騰や地球温暖化といった状況において、今後の農業の在り方を模索していく必要があるものと考えられます。

4 第3期天童市総合戦略に向けて

人口ビジョンにおける令和7年10月の推計人口は61,185人ですが、令和7年1月31日の人口（住民基本台帳）は60,069人となっています。様々な施策により人口減少対策に取り組んできましたが、減少が進んでいる状況です。

活力ある地域社会を実現するためには、人口を維持する必要があります。若年層には魅力ある仕事の創出、子育て世帯には安心して出産できる環境づくりと更なる子育て支援、学校教育の充実などの施策を展開し、人口維持という目的を達成する必要があります。

検証で得られた結果をもとに、施策の見直しを行いながら、天童市の地方創生を目指していきます。